よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

〒085-0018　釧路市黒金町 12 丁目 10

第 10 号　2017 年 11 月 26 日発行

王であるキリスト

フベルト・ネルスカンプ神父

今年 4 月、初めて北海道で働くことになりました。新潟教区の高田・直江津教会から釧路・北見地区の協力司祭として聖アントニオ修道院へ移りました。51 年前にドイツから日本へ参りまして、30 年ほど関西の箕面教会、大阪の韓国人の多い生野教会と日雇い労働者の釜ヶ崎地区で働きました。16 年前に雪国の新潟県の上越市の高田・直江津教会と聖母保育園で宣教活動してきました。釧路・北見地区の広い地域で小教区の手伝いをいたしますのは、新しい体験です。それぞれの小教区の特徴があり、分からないことが多いですが、支えてくださるようにお願いいたします。

尚、11 月 26 日は王であるキリストの祭日です。この祭日は、1925 年に、教皇ピオ 11 世が回勅をもって、「王であるキリスト」の祝日を定めたものです。時代はまさに、ドイツではヒットラー、イタリアではムッソリーニ、ソビエトではスターリンと独裁体制を固めているところでした。これに対して教皇様はイエスが一つの国の王ではなく世界の王であるとこの祝日を定めました。

イエスが十字架につけられたとき、ピラトが十字架上にかかげた札にイエスの罪状「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」（Iesus Nazarenus Rex Judeorum）という言葉がヘブライ語、ラテン語、ギリシャ語の３つで書かれましたが、ラテン語の頭文字をとったのがＩＮＲＩです。教会で使われる十字架像には、ほとんど書かれています。このサンダミアノの十字架のイエスの像は苦しみの姿ではなく、復活された王であるイエスの姿です。教会は、終末主日に世の終わりについて考察してきました。今日、この祭日を祝って、世の終わりが滅びの時ではなく、神の国の完成の時であること、キリストが宇宙の支配者であること、この王であるキリストが再び来てくださる喜びの時であることを祝います。こうして典礼サイクルを終え、次週から新しい典礼暦年がはじまります。

これから待降節に入り、北海道の厳しい冬を体験しながら皆さんと一緒に神の道を歩いて行きたいと思います。宜しくお願いいたします。

フランスから来たフェリックス一家です

フェリックス・ポルチェ

フェリックス・ポルチェと申します。7月の中旬から、鶴居村に引っ越してきたフランス人4人家族の父です。妻はマドレーヌ・マリア・ドミニックです。長男はジョズエ・モーゼ・ペドロ・フォレストといいます。弟はオグスト・ニューアジュです。

現在、私は鶴居村に建設中のバイオガス発電所の建築調整役として働いています。鶴居村に最低でも2年間住む予定です。妻のマドレーヌは専業主婦の傍ら、校正者として働くこともありますが、今はオグストの面倒と家庭の安全を見るのがメインです。釧路教会の信徒のおばあちゃんたちがお気づきのとおり、裁縫も大好きです！ジョズエ君は今、鶴居村小学校に通っていて、日に日に日本語が上達しています。オグスト君は、いつも可愛く元気です！

鶴居村への引っ越しが決まった時は、私たちの信仰心をこれからどうやって養っていくか心配していましたが、釧路教会を見つけることができました。毎日曜日に釧路教会の皆さんと主の食卓を囲むことを楽しみにしています。

私たち外国人に、皆さんは初日から歓迎してくれるだけでなく、生活面での色々な困っていることに手を差し伸べてくれた。いや、今でも助けてくれています。そのおかげで、カトリック信仰の大事な精神が地球の反対側、日本でも生きていることを実感させてもらいました。本当に有難いです。

日本語は私たちの母国語ではないので、感謝の気持ちをうまく表せないと、いつも感じてしまいますが、皆さんへの私たちの感謝の気持ちは私たちの笑顔と目でちゃんと伝えられていると信じています。

マドレーヌは、フランスの北のブルターニュ地方で生まれ育ちました。風の強い、天気の激しい地方です。私は、カリブ海に浮かんでいる、フランスの元植民地であったグアダルーペという熱帯気候の島で生まれ育ちました。まったく違う環境で育ってきたのに今、カトリック信仰を同じように抱いています。

不思議なことに、子供のころの記憶でもっとも深く残っている思い出は、二人ともミサの歌です。それは何よりもクリスマスの人々の信仰心を盛り上がる聖歌「お産まれだ！イエス様が！」という朗報を唄っている聖歌です。だから、皆さんとともに、クリスマスの聖歌を唄うのをとても楽しみにしています。

私たちにとって、歌は信徒の信仰心を支える柱です。キリストに愛の気持ちを伝えるには、歌うのが一番よい方法だと

確信しているからです。それから歌は、若くても年をとっていても、心を一つにするものです。
だから、毎日曜日、皆さんと一緒に聖歌を歌うことは大きな喜びです。これからも、心をキリストに向けながら、一緒に歌いましょう。

2017年カトリック大会について

フランシスコ・ザビエル　山口一郎

去る8月27日（日）、当教会を会場として、釧路地区カトリック大会が開催されました。参加者は十勝、根室、釧路の3管内から5教会で65名でした。

このたびは、フランシスコ会日本管区長　村上芳隆神父様をお迎えしての大会でした。

最初に5人の司祭と村上神父様の司式によるミサが行われました。昼食のあと、午後からは村上管区長様による「わたしたちの福音宣教」のタイトルで講演がありました。まずフランシスコ会について多面的な説明がありました。正式名称“小さき兄弟会”に係る歴史的な背景や進展等をパワーポイントを活用してお話になりました。

次にワークショップ（研究集会）形式による具体的な福音宣教について、いろいろな事例を用いて分かりやすく新しい考え方を説明されました。メモ用紙に福音宣教に多面的な方法で例として“最近の嬉しい体験はどんなことか”等、関心事を自由に記入させて、壁にラベル化させ、参加者の意欲向上を図らせたり、大勢での話をまとめる方向づけも気配りの中にありました。

キリスト者としての、ミッション、価値観、未来（理想）像をさぐり、発想の実践を進めるようにと強調されました。

超高齢化社会、人口減、司祭召命減、等の問題に対応するため、改めて信徒の使徒職を自覚して、取り組むよう熱心に提唱された講演会であり、たくさんの感銘を受けたカトリック大会でありました。

ハラスメントの講演会

ﾃﾚｼﾞｱﾍﾞﾈﾃﾞｨｸﾀ　勇　まゆみ

9月24日、「札幌司教区ハラスメント対応デスク」から菊地さんと西さんがいらして「ハラスメントの講演会」が開催されました。

米国で起きた聖職者等による子どもへの性的虐待問題を重く受け止めた教皇様の強い意向により、教会内の虐待やハラスメントへの対策が求められたことにより、日本の各教区でハラスメント対応デスクが設置されました。

また、今年から四旬節の第 2 金曜日を「性虐待被害者のための祈りと償いの日」と設定されたのも教皇様の意向です。

2004 年に実施されたハラスメントの意識調査のためのアンケート結果では、回答 110 中、70%の方が教会共同体にセクハラがあると回答されたということもショックなものでしたが、被害者の多くが誰にも相談できず沈黙を強いられているという現実にも驚かされました。今後、対応デスクの設置により、ハラスメント被害者が守られ、教会が安心・安全な場所になっていくよう願いたいものです。

また、配布された「ハラスメントを考えるための参考資料」には代表的なセクシャルハラスメントやパワーハラスメントなどの他に 33 ものハラスメントが提示されていて、私自身もふだん何気なく言ったり、行っていることが相手の方にとっては「ハラスメント」になっていることもあるかもしれないと気づかされました。自分を振り返るよい機会となった思います。

編集後記

バザーも無事に終わり、今年ももう待降節を迎えます。毎日忙しく、あっという間に過ぎてしまいます。

ずーっと以前、神父様に「毎日忙しくて…」と言ったことがあります。するとイタリア人の神父様が「忙しいという字は心を亡くすと書きますね」と教えてくださいました。なるほどな～と思ったことを今も、忙しい、忙しいと言う時に思い出します。

「貧乏暇なし」と言いますが心を亡くし、心の貧乏にならないように、心にゆとりをもって、クリスマスを迎えたいものです。神に感謝（K.K）

カトリック釧路教会　〒085-0018　釧路市黒金町 12 丁目 10
TEL　0154-22-5823　　FAX0154-22-5832
教会だより　編集：広報委員会

(